
帰り道/獄網

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰り道／獄綱

【Nコード】

N6916A

【作者名】

深海

【あらすじ】

いつもと同じ帰り道。だけど今日は何かが違う。

いつもと同じ帰り道。だけど今日は何かが違う。

俺はいつも山本と、俺を10代目として慕ってくれている獄寺君と一緒にいる。でも帰り道は山本が部活に行っちゃうから、獄寺君と二人になる。獄寺君は毎日俺の家まで着いてくるんだ。

「10代目あっちから帰りませんか？」

「え？遠回りじゃん」

「えっと、その……たまには違う道もいいじゃないすか」

もうすぐ家に着くっていうのに、なぜか違う道を指差す獄寺君。本当、獄寺君って何を考えてるかわからない。

そのあとほとんど違う道を歩く。黙って着いて来たけど、もういつもの倍は歩いてる。

「もー、獄寺君いつまで歩くつもり？ 疲れちゃったよ」

「す、すいません！ どっかで休みましょう。俺、飲み物買って来ます！」

「いいよ……いいから帰ろうよ」

急に獄寺君の落ち着きがなくなった気がする。何かを言いかけては止め、を繰り返す。

「獄寺君なんか変だよ？俺もう帰るからね！」

「待ってください10代目！すいません……時間が欲しかったんです」

家に帰ろうと歩き始めたけど、獄寺君が前に立ち塞がって俺の肩を掴む。

「時間？今日何かあったっけ……」

「違うんです……俺、10代目に言いたいことがあって……でも勇気がなくてだから時間が欲しかったんです」

「何？ 早く言ってよ」

溜め息混じりに言った俺は、獄寺君の言葉を聞いて固まった。

「すいません男同士でこんなこと言って……でも、もう我慢の限界なんすよ」

「獄寺君……」

まさか……信じられない。

獄寺君が俺のこと好きだなんて。でもなんでだろう。嬉しい……。

「ありがとう獄寺君。俺なんかのこと好きって言ってくれて。今まで獄寺君のことそういう風に見たことないし、すぐに返事はできないけど嬉しいよ」

「10代目……」

「帰ろ？ 獄寺君」

「はい……！」

遠回りはしたけど、いつもと同じ帰り道。だけど今日は特別な帰り道になった。

獄寺君と俺の距離が縮まった帰り道。そして何かが始まった帰り道。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6916a/>

帰り道/獄綱

2010年10月15日22時45分発行